

## 2009年度「未成年者飲酒予防基金」活動報告

当該社会活動は以下の手順により実施した。

1. 参加した子ども達に対して、お酒と身体の関係について理解促進をする。
2. お酒に関する民話を選び、テーマに沿った「民話劇」のお話をみんなで創る。
3. 民話劇の演技方をみんなで研究して、会得する。
4. 民話劇の稽古をみんなでする。
5. 活動の成果として、民話劇を発表してみんなに観てもらう。

先ず、お酒と身体の関係や、未成年者の飲酒が子ども達の身体や脳に与える影響について御社の資料や、他の関連する資料などを収集して当該子ども達の理解レベルに合うようにアレンジして教材とした。

そして、子ども達に飲酒について家庭で(団欒時等に)話し合い、その結果を記録させて劇づくりの際の資料とするようにした。

次に、日本各地の民話の中からお酒に関するものを探して、民話劇づくりのモチーフとした。民話の中にはお酒に関するものは多々あるが、飲酒を戒めたものはさほど無く飲酒により失敗した話しやお酒と人情話のようなものが多く見受けられた。

その中で、広島県地方に伝わる「お酒のすきな子ざる」の話しが、単純でわかり易く子ども達の共感を呼んだ。

そこで、この話をモチーフとして子ども達との劇づくりを始めることにした。

劇づくりでは、第1段階で子ども達と話し合ったことや、其々の家庭でのお母さんお父さん更に祖父母たちの反応や考えを踏まえた、子ども達の意見を基に構成していった。

ここでは、出来るだけ子ども達の自由な発想や意見などに耳を傾けた。

未成年者飲酒予防の内容と趣旨やその必要性、社会性等を子ども達にどう教えて子ども達自身のものとしてゆくかを考えて、お酒にまつわる民話を学びさらに未成年者の飲酒の害についての学習をする。

そして、添付した資料のようなワークシートを作り、其々のシチュエーションの中でどのような台詞を言うかを、子ども達に自由に書かせた。

それを基に、子供たちとのデスカッションを繰り返して、台本作りの基とした。

当該活動の民話劇「こざるたちのお酒騒動」は、平成22年1月17日(日)午後3時より、横浜市の鶴見公会堂(JR線鶴見駅前)にて発表会を行なった。

当該活動の成果は、民話劇の創作過程で、子ども達と保護者家族などとお酒について話しあう機会を創ったこと。小中学生の子ども達が演じた民話劇による、未成年者飲酒予防のメッセージは意外なほど、インパクトがあったと思われる。